

「ごみ処理の実態」についてお知らせします

平成14年度のごみ処理の総量は5千90t（別表1）です。内訳は、焼却処理されたごみが3千847t、不燃ごみの量が582t、分別収集の量が661tで、全体の処理量は13年度対比で1・13%、わずかに増えています。

焼却処理されたごみのうち、灰として南諏衛生センターの最終処分場に埋め立てた量は497t、不燃ガレキ屑等の埋め立て量が147t、全体の埋め立て量は644t、13年度対比で10・8%埋め立て量は減っています。現在の最終処分場を長く使用するためには、ひとり一人



コンテナには一升ビンやペットボトルなど資源ごみがいっぱい入っている



不燃コンテナの中へ粗大ごみは入れないでください

が、ごみの減量化に努めなければなりません。

資源化量は、南諏衛生センターで資源化を図っているアルミ缶・スチール缶の量が128t、地区での分別収集量が661t（別表3）、全体の資源化量は789tありました。コンテナに出されるアルミ缶などの量が前年対比で32・6%減少しました。ごみ処理の全体から見るとリサイクル率は15・50%で昨年度より下がりました。分別収集量は、わずかに13年度を上回っています。

不燃ごみの収集について

不燃ごみの収集は、地区に備えてある「不燃コンテナ」を使用して、缶・ガラス類、陶磁器類、金属類（小物）を収集計画表に基づいて収集を行っています。

平成11年4月からビンの分別収集を行っています。食糧や飲み物が入っていたビンを入れたコンテナに入れる方がいます。収集計画表の資源物収集日に出すようにしましょう。

また、有害物、中身の入っている容器は絶対に入れないで下さい。有害物は町で処理できないばかりでなく、コンテナ内や処理場等で漏れ出す場合があります。危険です。必ず中身を抜いてから出しましょう。

農機具をバラした物、自動車部品、鉄筋などの金属類についても施設の機械を傷める原因になりますので、入れないで下さい。

もえるごみ収集袋について

家庭のごみを出すときに業務用の70リットル袋で出す方がいます。

業務用の袋は事業者が有料で処理する場合に使用する袋です。一般家庭では業務用の袋を使用しないでください。

電気生ごみ処理機設置補助

町では、一般家庭の「電気生ごみ処理機」購入に対して補助する制度を設けています。

▼補助金額
購入金額の2分の1以内
（補助限度額1万5千円）

▼申請

販売店の領収書写し、印鑑を持参の上、住民課生活環境係に申請してください。

なお、補助金振込み先の口座番号が必要です。

この他、「生ごみ堆肥処理器」、「ボカシ容器」購入に対しても補助制度があります。

2分の1以内
（補助限度額2千円）

《ごみ処理状況のフロー》

処理量 (別表1)

処理項目	14年度	13年度	対 比
処理量①	5,090 t	5,033 t	101.13%
焼却処理	3,847 t	3,816 t	100.81%
不燃物処理施設	582 t	575 t	101.22%
資源化③	661 t	642 t	102.96%

処分量 (別表2)

処分項目	14年度	13年度	対 比
埋立量	644 t	722 t	89.20%
焼却灰	497 t	492 t	101.02%
不燃物処理施設	147 t	230 t	63.91%
処理委託量	309 t	155 t	199.35%
処理困難物	309 t	155 t	199.35%

直接資源化内訳③ (別表3)

種 類	14年度	13年度	対 比
びん類	101,401 kg	77,588 kg	130.69%
古紙類	509,338 kg	515,300 kg	98.84%
紙パック	3,280 kg	3,945 kg	83.14%
ペットボトル	24,070 kg	19,310 kg	124.65%
発スチロール	4,621 kg	5,604 kg	82.46%
布 類	12,810 kg	14,430 kg	88.77%
有害物	5,775 kg	5,517 kg	104.68%
合 計	661,295 kg	641,694 kg	103.05%

資源化量②	789 t	832 t	94.83%
金属類 アルミ缶・スチール缶など	128 t	190 t	67.37%
直接資源化 (分別収集品目)	661 t	642 t	102.96%
リサイクル率= 資源化量②÷処理量①	15.50%	16.53%	